

# 2015-3-1 牛、胎盤

川島大樹

提出機関: Veterinary Diagnostic Center, University of Nebraska-Lincoln

症例 : 牛(アンガス種)、雄、新生子

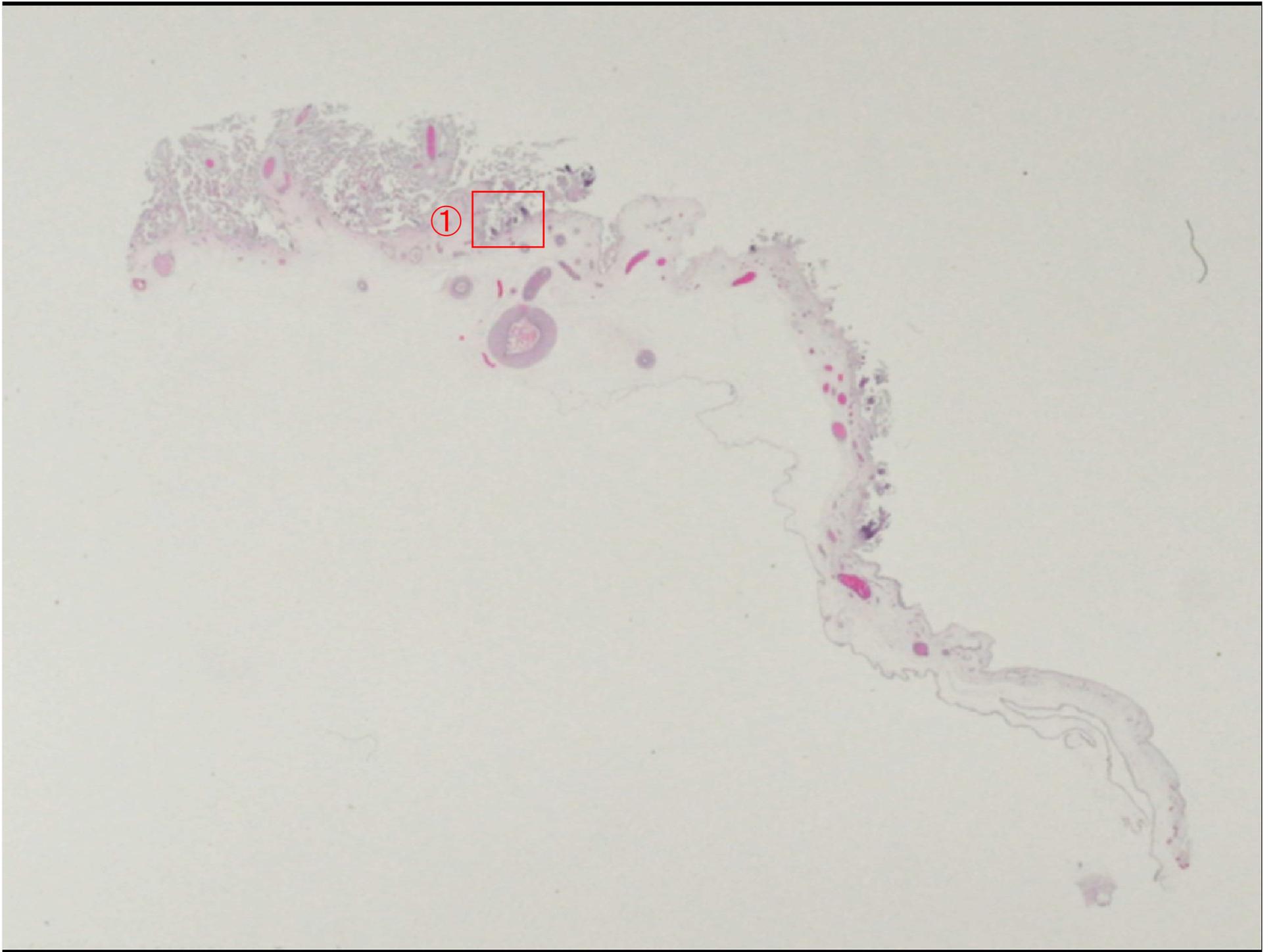
病歴 : 14ヶ月齢の未経産牛が2015年4月9日に胎子を排出。この未経産牛は妊娠の有無が不明だったため、2015年1月15日にRB51株ブルセラ病ワクチンを接種されていた。

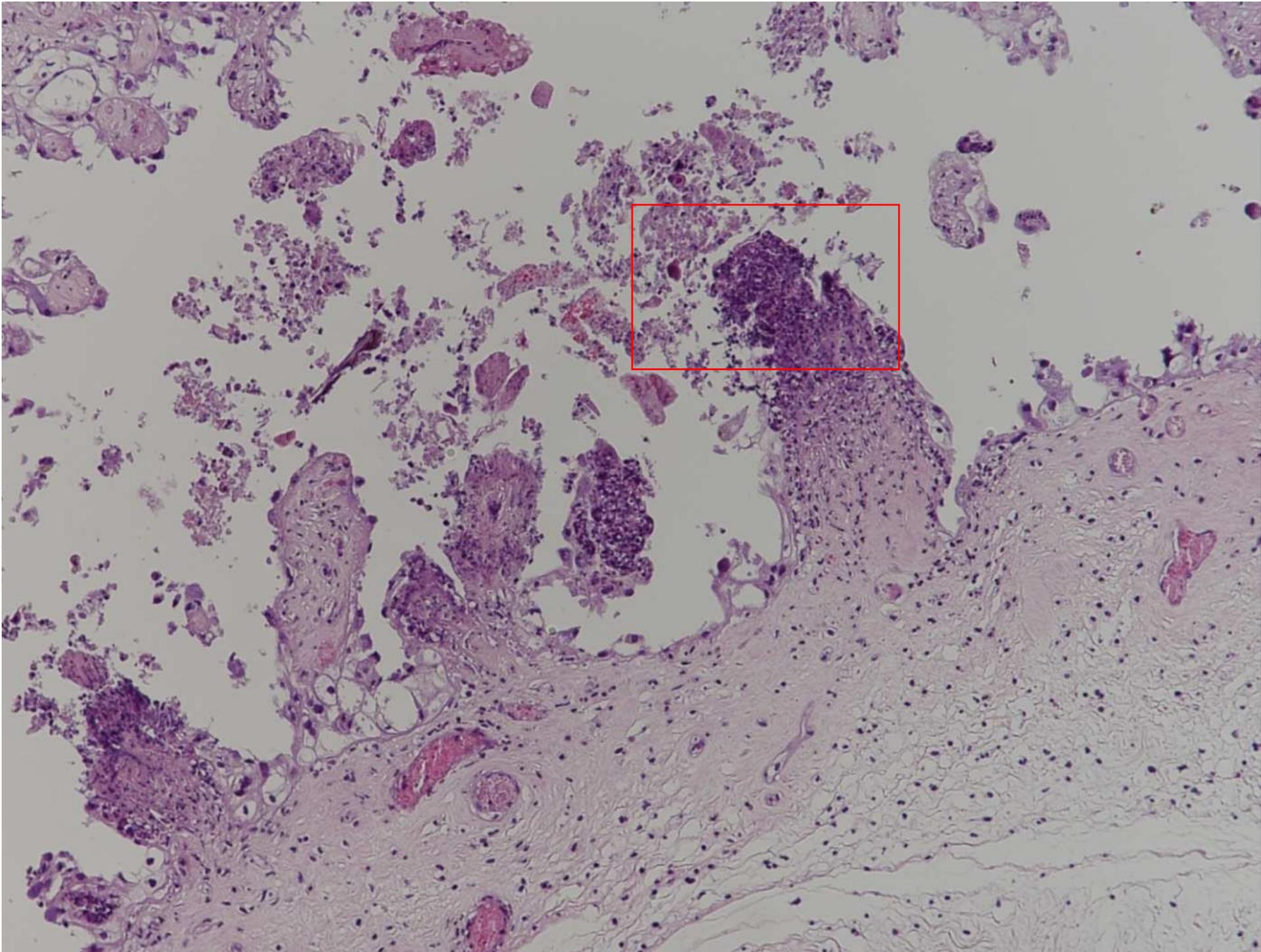
肉眼所見: 報告なし

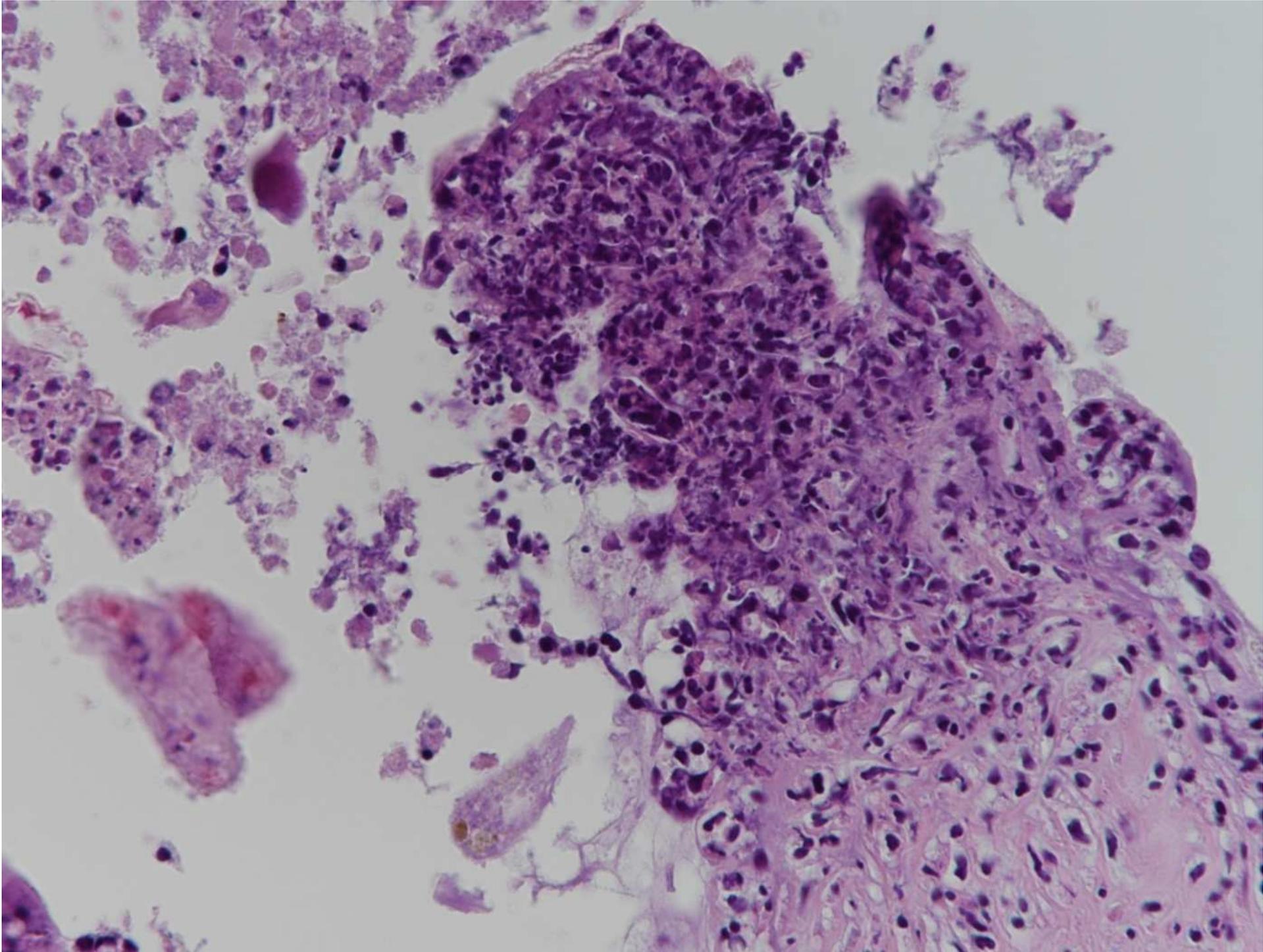
検査成績: 胎盤を材料とした細菌培養で*Brucella abortus*を分離。分離株はPCRでRB51株と確認された。

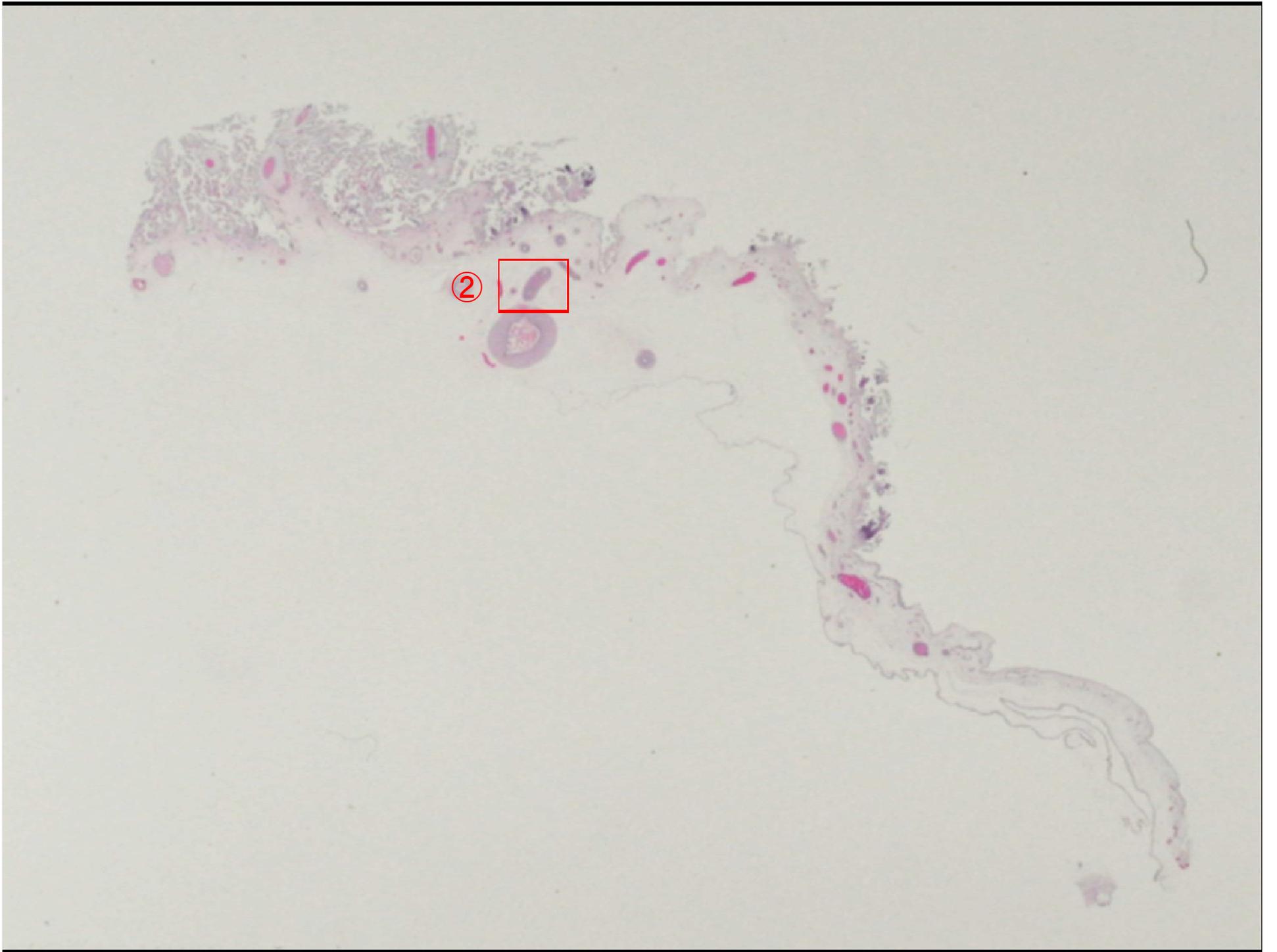
## ○組織所見

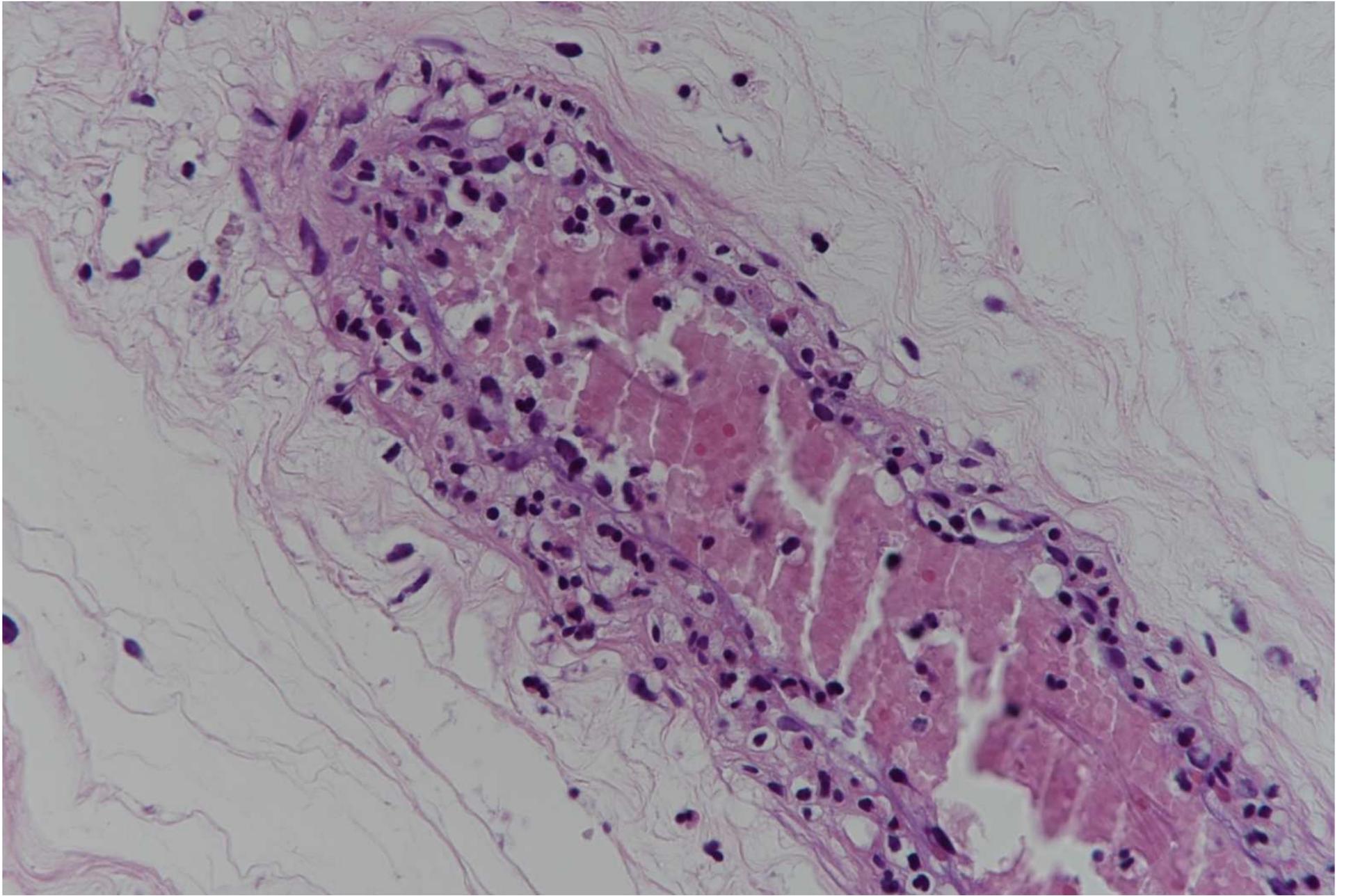
- 多数の変性した炎症性細胞を伴う絨毛の多巣性壊死
- 粘膜固有層の血管炎
- 栄養膜細胞の細胞質内菌

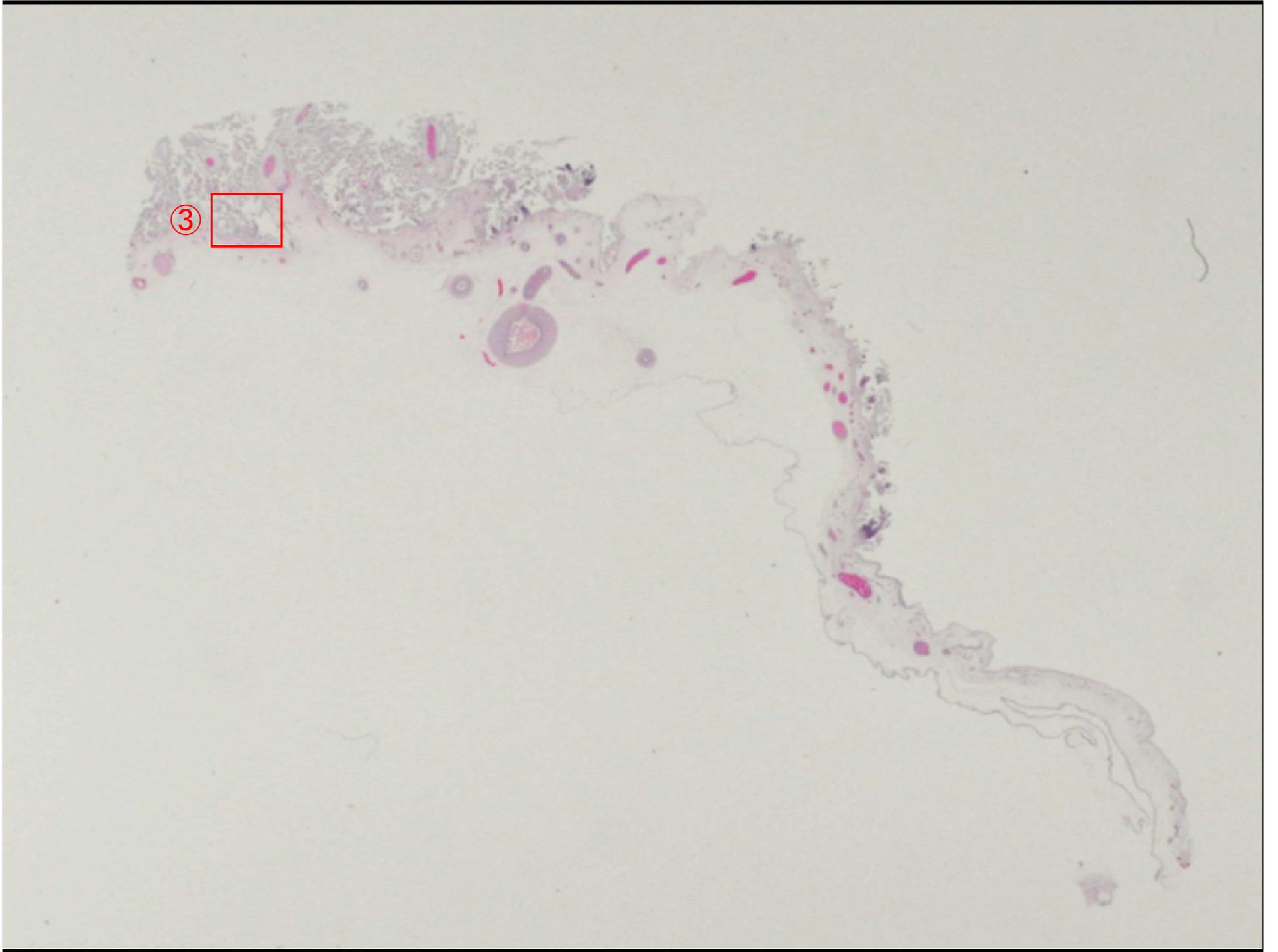


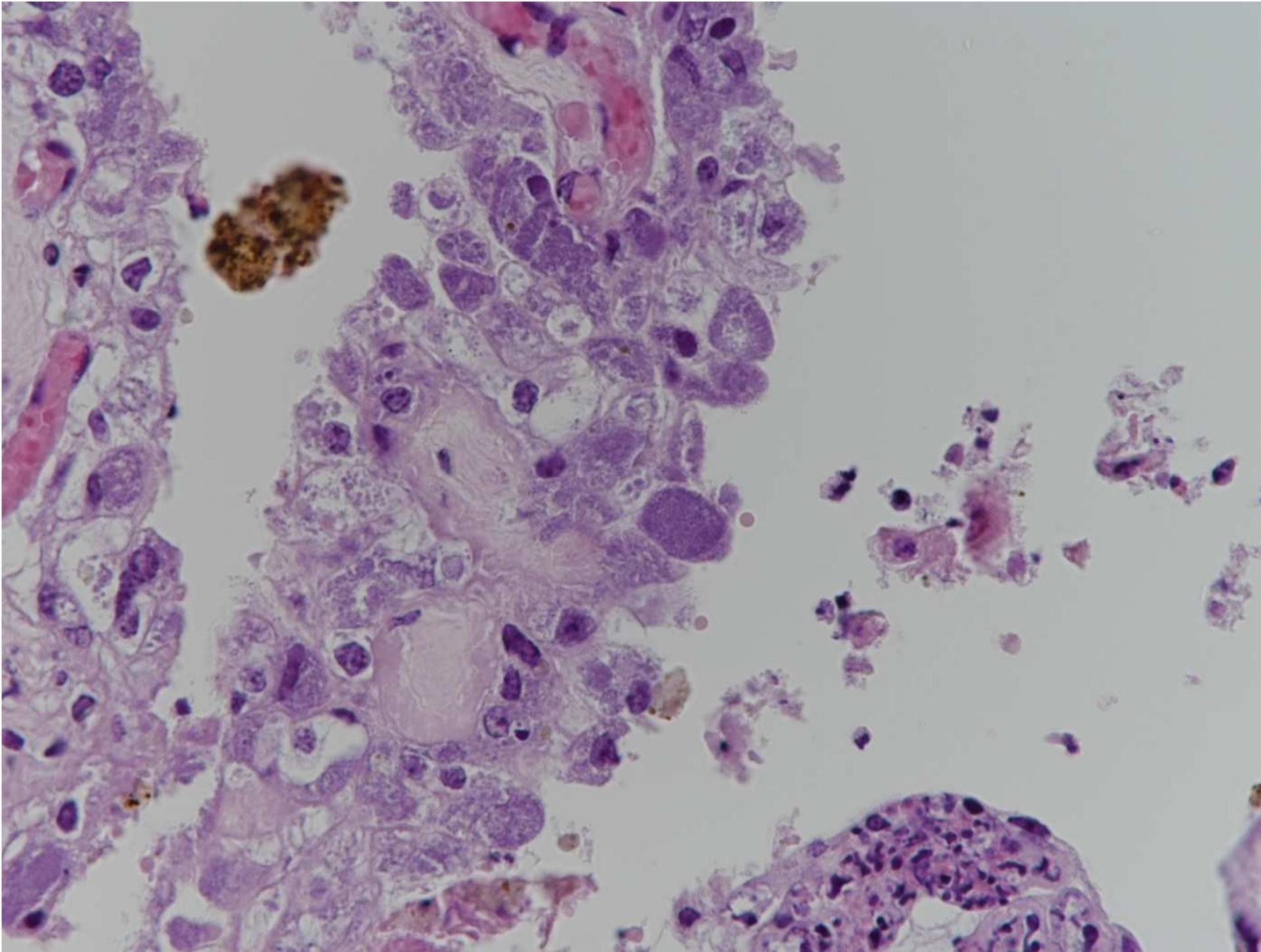












## ○提出者の診断

1. 著しい亜急性多発性壊死性好中球性胎盤炎、病巣内に球桿菌を伴う
2. 中等度から著しい、亜急性多発性壊死性血管炎

- 1, Marked multifocal subacute necrotic and neutrophilic placentitis with intralesional coccobacilli.
2. Moderate to marked multifocal subacute neutrophilic vasculitis.

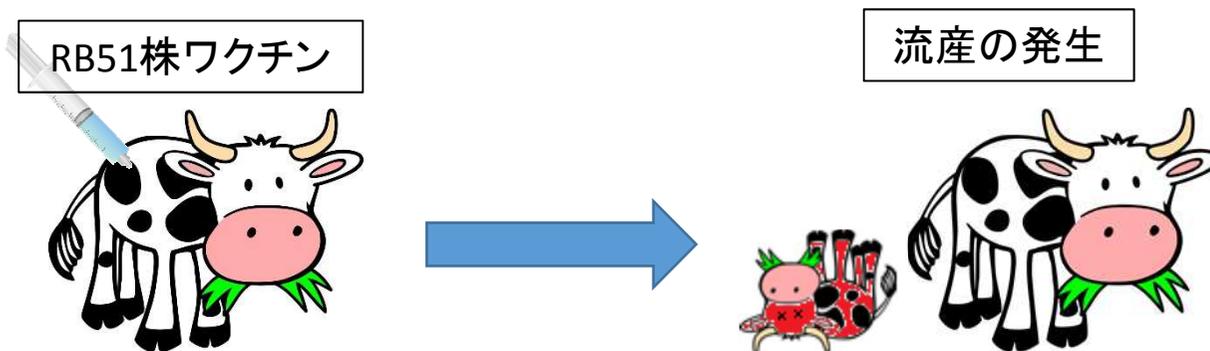
## ○JPCの診断

- 1.胎盤、絨毛膜絨毛：軽度胎盤炎、壊死、多巣性および癒合、血管炎および多数の栄養膜細胞内桿菌を伴う

- 1.Placenta,chorionic villi : Placentitis, necrotizing, multifocal to coalescing, mild with mild vasculitis and numerous intratrophoblastic bacilli

## ○提出者のコメント

- ・*B.abortus*の通常の感染源は流産胎子の組織や流産個体の胎盤などの摂取である。
- ・牛ブルセラ病のワクチンは当該疾病の対策において重要な役割を担っており、今回の未経産牛に接種されたRB51株は、最近開発されたワクチン株である。
- ・今回の事例は *B.abortus*(RB51)のワクチン投与により流産が起きた興味深い例である。この事例からワクチン接種は、若く、妊娠していない個体に限定するべきである



## ○JPCのコメント

- ・胎盤炎と血管炎はワクチン株である*B.aboruts*(RB51株)が原因であると思われる
- ・他の細菌性流産性疾患との鑑別点は以下のとおり

<i>Coxiella burnetii</i>	栄養膜細胞が泡沫状の様相を呈する
<i>Chlamydomphila abortus</i>	血管炎が顕著である
<i>Listeria monocytogenes</i>	流産に加えて胎子に多臓器の壊死病変や敗血症がみられる
<i>Campylobactor sp.</i>	一般的に胚芽死が起こる。また、流産が発生した場合の病変はブルセラ病と似ているが、一般的により軽度である
<i>Leptospira</i> など他の流産を起こす細菌性疾患	壊死性胎盤炎を起こさない